



# すぎ七

杉並区立杉並第七小学校  
校 長 井口 修  
TEL 3392-6328  
FAX 3393-7536  
令和8年9月30日

## 一人ひとりの「好き」が彩る 芸術の秋

副校長 半田 勝

まだ夏の湿り気が残っているものの、朝夕の涼風に秋の確かな深まりを感じる季節となりました。

今月末の学習発表会が近付くにつれ、西校舎からは子どもたちの奏でる合奏の調べや澄んだ歌声が響いてくるようになりました。また、図工室を覗けば、画用紙や粘土に向き合い、夢中になって手を動かす子どもたちの真剣な眼差しに出会います。「芸術の秋」「実りの秋」の到来を感じる杉七小の秋の日常です。



さて「芸術の秋」といえば、以前からぜひ生で聴いてみたいと願っていたピアニスト・辻井伸行さんの演奏に触れる機会がありました。久石譲さんの数々の名作や、親しみやすいクラシックの小品たち。優しく濁りのない音色が、心と身体にすっと沁み込んでくるようなひと時でした。

また、私が心奪われたのはその音色だけではありません。身体の内側から湧き出るインスピレーションに身を委ねるように、ピアノと一体となって全身全霊で奏でる辻井さんの姿そのものに、私は深い感動を覚えました。目が見えないというハンディキャップを微塵も感じさせないどころか、音楽の神様が彼の身体を通して生き生きと歌っているような、忘れがたい瞬間を胸に刻みました。

辻井さんの音楽家としての歩みの背景には、幼少期からのご両親の温かな眼差しがありました。お母様は、辻井さんが赤ちゃんの頃、ショパンの音楽に合わせて嬉しそうに足を動かしたことに気付いて以来、豊かな感覚を通して世界の美しさを

伝え続けてこられたそうです。美術館に行けば絵画の色彩や構図を言葉で伝え、海に行けば波の音や風の匂いを一緒に楽しむ。「目が見えないから無理」と決めつけず、「この子の『好き』や『できること』を信じ、面白がる」というご両親の姿勢こそが、辻井さんの類まれな感性と、まるでピアノと戯れるように無心に鍵盤に向かう姿勢を育んだのだと、深く感銘を受けました。

大人の願う姿や枠だけにあてはめるのではなく、子どもが夢中になれるものに寄り添い、内に秘めた可能性を信じて待つことの大切さを改めて教えられた気がします。（辻井いつ子『今日の風、なに色？—全盲で生まれたわが子が「天才ピアニスト」と呼ばれるまで』等参照）



今月末にはいよいよ学習発表会を迎えます。体育館に響く一人ひとりの声や楽器の音が一つに重なり合う音楽発表、そして子どもたちの豊かな発想と個性が彩り豊かに形づくられる図工の作品展示。これらは大人から見れば小さな表現のひとつかもしれませんが、そこには子どもたちの「自分らしさ」や「夢中になって見つけた世界」がぎゅっと詰まっています。

どうかご家庭でも、「どんな音を出したい?」「どんな色が好き?」と、子どもたちの純粋な感性に耳を傾け、挑戦する姿を温かく励ましていただければ幸いです。秋色に染まる学び舎で、子どもたち一人ひとりの「好き」や「自分らしさ」がどんな輝きを放ってくれるのか、今から楽しみです。

感性の実り溢れる杉七小でお待ちしております。

### 10月の生活目標 「やさしい気持ちで生活しましょう」

やさしさとは、相手のことを思いやり、考えて行動することです。友達に温かい言葉をかけたり、困っている人にそっと手を差し伸べたりする姿は、学校生活をより明るく気持ちのよいものにしてくれます。また、自分とは違う考えや気持ちを受け止めることも大切です。

一人一人がやさしい気持ちを持ち、互いを大切にできる、笑顔あふれる学校づくりをすすめてまいります。

生活指導主任 金井 順也